

令和7年度（2025年度）
第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会
（根室学区）

4月22日、北海道根室教育局主催の「第1回公立高校配置計画地域別検討協議会（根室学区）」がWeb会議形式で開催され、根室市議会文教厚生常任委員会委員長の鈴木一彦と、須崎和貴副委員長が、波岸教育長とともに出席しました。



写真左から鈴木、須崎副委員長、波岸教育長（教育長室にて）

2025年度における根室管内の高等学校の状況は、中標津高校で普通科が4クラスから3クラスになりましたが、他の高校は現状維持でした。

根室高校は、定数200人に対し、84人の欠員が生じましたが、普通科3クラス、商業科2クラス（うち事務情報1クラス）が維持されたところです。

中学卒業者数の推移などから検討される、根室学区高校配置計画の見込みですが、2026年度は中卒者数が学区内で前年度より50人の減（根室市では15人減）となりますが、2027年度は同62人の増（同10人増）となります。しかしながら、2028年度から再び減少に転じ、同年度は学区内で1・2学級に相当する中卒者の減が見込まれています。また、2029・2032年度の4年間では、2・3学級に相当する中卒者減の見通しがあります。

2023年度に示された「これからの高校づくりに関する指針」改訂版における高校魅力化では、「（前略）学校と地域の連携を深め、情報を共有するとともに、協働して地域の人材を育成することが重要であり、（中略）地域と連携・協働し、生徒から選ばれる魅力ある高校づくりを推進する必要があります」と示されています。この指針に基づき、高校魅力化の取り組み事例（3校）が紹介されました。

出席者からは、高校魅力化における道教委の取り組みについての質問や、不登校生徒が増加しているもとで通信制高校を選択している生徒数の推移を示してほしいなどの要望が出されました。また、某高校長からは、オンライン授業の取り組み事例が示されました。いずれにしても、少子化が進む中、道教委の高校配置計画については、しっかりと注視していかねばならないと感じました。

（4月26日議会報告会のチラシ）